

徳島ブロック 連携事業戦略シート

2018年8月31日

公益社団法人日本青年会議所

2019年度 四国地区協議会

徳島ブロック

会長 蔭山 勝利

1 SDGs達成に向けた運動について

「新しい人の流れ」を生み出す「とくしま回帰」の推進と、魅力ある安定した「しごと」、「生活」を創り出し、徳島県の地域特性にあった持続可能な社会を作る運動を行います。官民の更なる連携強化により、地域資源を有効活用し、地域経済の好循環を作り上げる事業を進めます。また、災害においては、今後発生確率の高い南海トラフ地震などの災害リスクに対する防災、減災につながる事業を行う必要があります。

2 ブロック連携事業の構築

①災害ネットワークの構築

【SDGs設定】

I. ゴール13、17. ターゲット13、17

大規模災害の有事に備え市民の生命を守るために効果的な防災対策を検討し、災害ネットワークを構築します。

【KPIの設定】前項と連動

行政や社会福祉協議会と災害協定を結び、災害時の迅速な対応ができるようにするため災害対策訓練の実施回数2回を目指します。

KPIの現在値： 0回(2018年)

KPIの目標値： 2回(2019年)

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

異常気象による風水害や南海トラフ地震の発生の確率が高まるなか、有事に備え市民の生命を守るために、地域の特性を知り効果的な防災対策を検討し、災害ネットワークを強化します。

2)MOTIVATE(意欲)

異常気象による風水害や南海トラフ地震に備え防災ネットワークを構築することにより、防災意識の向上につながります。

3)INVEST(投資)

災害支援ネットワークの構築にあたり、ネットワークづくりに必要な資金や人材に投資を行い、有事の際の連携を迅速に行います。

4) COLLABORATE(協力)

行政や社会福祉協議会と協力し、災害時の対応を迅速に行います。

5) CONNECT(つながり)

社会福祉協議会とのつながりを強化するとともに、他団体との連携を行えるよう協定を結び、災害時の連携を迅速に行います。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 異常気象による風水害や南海トラフ地震の発生の確率が高まるなか、地域の災害支援ネットワークの構築が不十分なため。

How(手法): 行政、社会福祉協議会、商工会、商工会議所などの各種団体組織と災害支援ネットワークを構築し、災害時の連絡調整を円滑に行います。

What(対象): 災害支援ネットワークを構築することで、災害時の適材適所を行うことができ、迅速な対応をとることにつながります

【外部協力者・種別】

徳島県危機管理政策課、市町村役場の危機管理課、社会福祉協議会、商工会、商工会議所、消防、警察、自衛隊

②国土強靱化を実現する社会基盤整備計画の実施

【SDGs設定】

I. ゴール13、17. ターゲット13、17

今後発生する確率の高い南海トラフ地震や異常気象による風水害などの災害をイメージし、防災・減災につながることを目的とします。

【KPIの設定】前項と連動

地域特性を知り、防災、減災につなげる事業の企画、実施を行い、防災事業の参加者数200人を目指します。

KPIの現在値 0人(2018年)

KPIの目標値 200人(2019年)

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

防災の専門家による講演や地域の特性を反映したハザードマップの利用を行い、地域住民が災害をイメージすることで防災、減災につながります。

2)MOTIVATE(意欲)

あらゆる災害をイメージできる機会の提供を行い、自助、共助の大切さや防災、減災の意識を高めます。

3)INVEST(投資)

各LOMIに防災に関する知識を持つ人材を育成する事業を行い、地域の防災リーダーとしての役割を果たします。

4)COLLABORATE(協力)

社会福祉協議会との協力関係を強化し、有事の際の災害復旧支援や物資の提供など迅速に対応できるようにします。

5)CONNECT(つながり)

社会福祉協議会、行政、消防、自衛隊、警察など各種組織とつながりを強め、災害時の適材適所を行えるようにします。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 南海トラフ地震が今後50年のうち高確率で発生する恐れや異常気象による風水害に対する防災意識の向上を図る必要があります。。

How(手法): SDGsを活用し、防災の専門家による講演、ハザードマップの利用、各種組織との連携を強めます。

What(対象): 災害時を想定したイメージをもつことで有事の際の迅速な対応につなげます。

【外部協力者・種別】

徳島県危機管理政策課、市町村役場の危機管理課、社会福祉協議会、消防、警察、自衛隊

③地域経済ビジョンの構築

【SDGs設定】

I. ゴール8、9、11、17. ターゲット8、9、11、17

地域資源を有効に活用し、すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長を目指すことを目的とします。

【KPIの設定】前項と連動

地域資源の有効活用による新たな経済ビジョンの構築の企画、実施を他団体組織と連携して行い、事業の参加者数200人を目指します。

KPIの現在値 0人(2018年)

KPIの目標値 200人(2019年)

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

地域資源を有効に活用することを行い、他地域との差別化を図ることができます。

2)MOTIVATE(意欲)

地域住民や地域の各種団体と地域資源の活用方法の調査研究を行い、地域経済の発展に寄与していく意識を高めます。

3)INVEST(投資)

自然、歴史、立地などの地域資源に積極的に投資を行い、魅力的な場所を創造します。

4)COLLABORATE(協力)

商工会、行政との協力を強め、新しい地域資源を創造します。

5)CONNECT(つながり)

行政、商工会、商工会議所などつながりを強め、地域資源を生み出す力を養うとともに、新たなビジネスチャンスを創出します。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 人口減による地域経済の下振れリスクと既存観光の低迷が続く徳島経済を活性化させなければなりません。

How(手法): 経済界や行政など各種団体組織とSDGsを活用し地域資源の有効活用の調査研究、意見交換を行います

What(対象): 多様な産業や行政が連携することで新たな地域資源を創り出します。

【外部協力者・種別】

徳島県庁、市町村役場、商工会、商工会議所

④JCIカップ U-11少年少女サッカー全国大会予選大会の実施

【SDGs設定】

I. ゴール4、17. ターゲット4、17

JCIカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会を開催することにより、グットルーザーの精神を学べる機会を提供し、様々な問題に前向きに取り組む精神を備えた人材を育成します。

【KPIの設定】前項と連動

KPIの現在地: 6チーム(2018年)

KPIの目標値: 20チーム(2019年)

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

JCIカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会を開催することにより、グットルーザーの精神を学べる機会を提供し、様々な問題に前向きに取り組む精神を備えた人材を育成します。

2)MOTIVATE(意欲)

JCIカップU-11少年少女サッカーを通してグットルーザーの精神を備えた次世代の人材を育成することに大きな意義をもちます。

3)INVEST(投資)

JCIカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会を開催することで、包容力と強い精神力を持ち様々な問題に前向きに取り組む人材を育成します。

4) COLLABORATE(協力)

地域のスポーツ指導者、一般社団法人日本サッカー名蹴会などと協力しながら大会参加者にグットルーザーの精神を育みます。

5) CONNECT(つながり)

地域のスポーツ指導者、徳島ヴォルティスとつながりを持ち、スポーツ振興につなげていきます。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): スポーツを通してグットルーザーの精神を備えた次世代の人材を育成するため。

How(手法): 地域のスポーツ指導者、徳島ヴォルティス、一般社団法人日本サッカー名蹴会などと共同でJCIカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会を開催します。

What(対象): グットルーザーの精神を育むことで、包容力と強い精神性を持ち様々な問題に取り組む人材が育成できます。

【外部協力者・種別】

徳島ヴォルティス、一般社団法人日本名蹴会、地域のスポーツ指導者

⑤ブロックアカデミー事業と連携したカリキュラムの企画・実施

【SDGs設定】

I. ゴール4、17. ターゲット4、17

会員減少が進むなか、会員拡大事業やアカデミー事業を行うことにより、社会のあらゆる分野で活躍し、地域を牽引する人材を育成します。

【KPIの設定】前項と連動

KPIの現在値 240人(2019年期首会員見込み)

KPIの目標値 320人(2019年)

【5つの戦略】

1)IMPACT(影響力)

会員数の減少が進むなか、会員拡大事業やアカデミー事業を行うことで、社会のあらゆる分野で活躍し、地域を牽引する人材を育成できる組織はJCIしないと市民から共感や信頼を獲得し存在価値を高めます。

2)MOTIVATE(意欲)

メンバー自ら会員拡大を行うことで地域を牽引する人材が増えることを実感するとともに、体外においては、JCIに入会すれば新しい時代に必要な能力を身につけることができる場にしていきます。

3)INVEST(投資)

公益事業を通して地域に投資をし、地域発展に寄与することでJCの信頼を獲得します。また、各LOMの今後中核を担うメンバーに対して会員拡大の目的や使命を伝える人材になるため、研修会や講演会などを実施し、人材に投資をします。

4)COLLABORATE(協力)

ブロックとLOMの連携を密に行うとともに、LOM同士の連携を取れるようにブロックが支援することや、毎月開催される会員会議所において拡大推進の進捗を確認し、目標を立てブロック全体で行なっていきます。

5)CONNECT(つながり)

行政、商工会議所、商工会など各種団体や各種協会団体と強固なつながりを持つために積極的な声掛け、JCの会議への参加を促し、最終的にはパートナーシップを結びます。

【政策手法(ゴールデンサークル)】

Why(理由): 会員数の減少が進むかな、同じ志を持つ仲間を増やし、地域を牽引する人材を育成し、輩出していかなければなりません。

How(手法): ブロック全体でリストアップ、情報交換、アカデミー事業、JCIプログラムを活用します。

What(対象): 講演会や研修会を通して入会候補者に勧誘、メンバーにセミナーの開催、資質向上を行います。

【外部協力者・種別】

徳島県庁、市町村役場、商工会、商工会議所

3 アクションプラン

3.1 ブロック協議会としての役割

日本青年会議所の運動を徳島県内にて実行する役割を持ち、本会の推進する運動を徳島ブロック内の各地青年会議所の理事長と協調し、それぞれの地域へJC運動を推進することを大前提とします。また、各地青年会議所の抱える問題を本会と共に解決するべく、その最先端のパイプ役としての担いも行います。また、各地青年会議所から出向して頂いた次世代の人材を、ブロック会長はじめ自ら行動で導くことで、各地青年会議所に一番近い日本青年会議所として、日頃の活動の中で育成を行う資質向上の場としての担いもあります。すべてはメンバーの成長の機会の提供として徳島県内の各地青年会議所のメンバーを誰一人取り残さないブロック運営を行います。

3.2 ブロック独自の事業

- ・徳島ブロック大会、記念事業の企画・運営
- ・各LOMメンバーに対しコンプライアンス・ガバナンス強化を行う事業の企画・運営
- ・JCの認知度向上を目指す広報活動の企画・運営

3.3 1年後の姿

地域にJCがなくてはならないと思われる組織であるために組織として進化していかなければなりません。まずは、会員拡大を行い、地域を牽引する人材を育成します。リーダーとなるべく人材が、徳島の人口流出に歯止めをかけるため、新たな視点から新ビジネスを創出し、徳島で生活することの意味や価値観を地域住民に見出してもらいます。また、異常気象による風水害や南海トラフ地震による災害に対する意識の醸成を行うことにより防災・減災につながり災害に強い徳島の創造を実現させます。

以上。